

祝辞 //////////////////////////////////////

近畿病院図書室協議会 15周年を祝して

社会保険神戸中央病院

院長 中村 充 男

近畿病院図書室協議会が設立15周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

本会が22機関で発足したのが昭和49年と聞きます。私事で恐縮ですが、私が社保神戸中央病院に赴任したのも昭和49年で奇しき御縁を感じます。もっとも、その後15年間に近病図協は72機関と数も増え、質量共に充実発展を遂げられたのに対して進歩のない私自身を省みる時誠に恥入るばかりです。

さて、本会設立の目的は①文献の相互貸借を円滑に行なうことと、②担当者の研修等を通じての病院図書室のレベルアップを図ることであると理解しています。

医学雑誌や図書の数が天井知らずに急増している昨今、大学図書館も含めて一機関でこれらを全て揃えることはスペース的にも財政的にも最早不可能となっており、分担収集、分担保存と共同利用が不可欠の条件となっております。近病図協では早くからこの問題を取上げ、実績を挙げておられることに敬意を表します。

②の担当者の研修にも積極的に取組んで来られ、私自身は役員会に数回出席したのみですが、その度に皆さんが手弁当で参加して、更に熱心に、かつ和気藹々と勉強されていることに感心させられました。

私の病院では複数の司書が居て、病歴士を兼務しており、更に医局秘書が机を並べていますので、図書事務室が三つに分れている医局の要の役割を担っているため、人の出入りも多いのですが、一般には病院図書室の職員は孤独であり、また研修参加も申し出にくい立場にあると思われれます。その人達に多くの仲間がいるのだと勇気づけ、かつ研修と親睦の場を提供して来た本会の研修会の存在は誠に意義深いものがあると考えます。

研修会が各機関を利用して開催されるのも大変よいことで、本会の存在を各機関の管理者に認識させ、かつ研修の成果や他機関の実情の報告を聴くことで、自分の病院の図書室の改善を余儀なくされる等管理者の啓蒙にも役立っていると思います。図書室の整備は病院機能評価の項目にも取入れられており、経営が益々厳しさを増す中でも、管理者は真剣に取り組むべき問題であると考えます。

最近の医療情報提供のメディアは非常に多様化しています。即ち、学会、研究会、医師会の生涯教育部門、業者、製薬会社等々が、各々、講演会、セミナー、ビデオ販売、放送等を行ない、薬品会社は文献検索サービスを行なう等、まさに洪水の様に情報が巷に溢れています。それらの中で、病院図書室が従来同様、図書の管理や文献検索の枠内のみに滞っていてよいのかを考慮する時期に来ていていると思います。

また、今後はコンピュータやFAX等の導入による情報交換の迅速化にも取組んで行くことも必要と考えます。

しかし乍ら“継続することに意義あり”で近病図協が二十周年に向って更に充実発展されることを祈って止みません。